

評価指標	評価欄	評価内容	評価基準
	自己評価	「評価項目」①の達成度	75%以上達成…A、50～74%程度達成…B、20～49%程度達成…C 20%未満達成…D
	全校自己評価	「自己評価」②のB以上の割合	9割以上…A、7割以上…B、5割以上…C、5割未満…D
	学校関係者評価	「全校自己評価」③、「成果と課題及び改善策」④の適切度	適切である…A、ほぼ適切である…B、あまり適切でない…C、不適切である…D

評価項目①	自己評価②(%)				全校自己評価③	成果と課題及び改善策④	学校関係者評価	意見等
	職員による評価A～Dの割合							
	A	B	C	D				
学力向上	20	50	23	7	B	<p>〈成果と課題〉普通科の探究コースと総合コースについては、早い段階で特色のある教育課程の編成が完了した。生活情報科は、生活文化科と学科名が変更になるため、前年度から教育課程の編成について検討してきた。また、年2回の授業研究週間を設定し、職員間で協議しながら授業改善に取り組んできた。広報活動においては、オープンスクールや集合学習会の場で、中学生に対して本校をアピールできた。地域に対しても、凜乎やホームページでアピールに努めた。</p> <p>〈改善策〉生活文化科については、次年度が始動の年であり、生徒の実態や学科の特色を生かしながら教育課程の編成に努めていく。</p>	A	先生の評価と関係者の評価の観点に温度差がある。項目によっては関係者は良いことしかみえていない部分もあり先生が低く評価しているようにみえるところもある。
自立した人間の育成	17	57	23	3	B	<p>〈成果と課題〉各ホームルームや学年の生徒の状況を素早く把握し、問題が発生した場合には職員間で連携して素早く対応することができた。志学の時間での部活動生の管理などこれまで問題としていた部分に対して改善策を考え、実践することができた。海棠祭や球技大会などの行事では生徒が責任感を持って自らが行動できるよう職員による積極的な声かけを心掛け、やりがいや達成感をもたせることができた。</p> <p>〈改善策〉問題行動等への対応はしっかりと連携をとることが出来た。これからは未然に防ぐための予防的な生徒指導ができるよう具体的な方法を考えながら実践に努めていく。</p>	D	生徒指導に関しては生徒間の問題があることを子どもを通じてきているので厳しく評価した。問題のある生徒の学校での行動を保護者に報告しているのがみえなかった。
進路保障	13	47	33	7	C	<p>〈成果と課題〉早期の個別指導の開始で昨年に引き続きAO入試による国立大学合格者を出すことができた。これは、推薦入試、一般入試にも好影響を与えたと考えている。それぞれのコースの特色に応じた進路実現についても一定の成果を上げたといえる。加えて、県警合格者が数年ぶりに出たことや就職内定も順調に全員内定となったことから、学習指導とキャリア教育が充実してきたことが成果として表れた。</p> <p>〈改善策〉自己評価が昨年度に比べて低いことに表れているように、進路指導部として取り組んでいることを全職員に浸透させ、活動をさらに深化させていけるよう努めなければならない。</p>	A	進路に関しては進路実績に対する評価の視点が先生は厳しすぎるのではないか。
心身の健康・安全	10	60	23	7	B	<p>〈成果と課題〉各学年でWYSH教育を展開することを目標としていたが、3年生は性教育としての扱い、2年生は学級閉鎖等の影響を配慮して講義だけの実施にとどまり、十分な取り組みはできていない。保健部に所属する部員が少ないため、十分な準備が間に合っていないことも課題である。また、昨年度まで減少傾向であった保健室利用者数も今年は大幅に増加していることも課題と言える。環境整備については、職員も含めた美化意識の改革に取り組まなければならない。生徒が動かないのではなく、職員が動かすことができない場面も多く見受けられる。</p> <p>〈改善策〉WYSH教育は2年生のみの実施で質を高める。清掃意識を喚起できる仕掛けを行う。</p>	C	
地域社会や保護者との連携・広報	27	57	17	0	B	<p>〈成果と課題〉地区集会やPTA各種委員会の活動については、保護者・職員の協力の下、積極的に行われた。特に、母親委員会は、県西地区母親研修会を本校で実施したが、非常に好評で活気にあふれた研修会になり、西諸地区の他校の保護者との交流を深める良い機会となった。</p> <p>〈改善策〉委員会活動については、広報委員の保護者の活動が、もう少し周囲の方々に見えるようなものに工夫した方が良いという意見がある。地区集会については、地区の世帯数が少なくなっている所も見られ、合併などを検討する必要がある。</p>	A	
教育諸条件の整備、安全・安心な学校づくり	20	57	23	0	B	<p>〈成果と課題〉経年劣化に伴う校舎等の修繕箇所が増えているが、生徒の安全を第一に考え早急な対応に努めている。明るい校舎を目指し、照明器具もLED器具等に部分的に交換できた。鳩による糞害があるので、今後とも鳩対策が必要である。</p> <p>〈改善策〉優先順位を決め、県教育委員会に相談の上、早急に修繕していく。</p>	A	
小中高一貫教育	50	33	17	0	B	<p>〈成果と課題〉小中高一貫教育における取組が確立され、連携した取組がスムーズに実施できた。異年齢同士で取り組むことで本校生徒のリーダー力、コミュニケーション力、自己肯定感の育成に役立っている。職員にとっても小中学生の実態を把握することができ、指導力の向上に繋がっている。秋に実施した海棠セミナーも好評であった。課題としては、取組に対する評価、地域へのアピール推進等である。また職員の負担感軽減と同時にマンネリ化防止も必要である。</p> <p>〈改善策〉評価方法確立や、新聞、回覧板等を利用したアピールを推進する。部会担当校の入れ替えを行うことで新たな取組や工夫を図っていきたい。</p>	A	